

令和5年度 大津町子ども・子育て会議 議事録

- 開催日時 令和6年3月28日(木)13:30～
- 会場 大津町役場1階「多目的室」
- 出席委員 工藤委員(会長) 関委員(副会長) 江口委員 村上委員 坂本委員
高山委員 堀委員 大野委員 元村委員 備海委員 太田委員 佐藤委員
- 欠席委員 大村委員 益田委員
- 傍聴者 なし
- 事務局 坂本健康福祉部長 伊東子育て支援課長
下田子育て支援課課長補佐兼子育て支援係長
蔵森子育て支援課主幹兼入園支援係長
森子育て支援係参事 桐原入園支援係主事
宮内健康保険課母子保健係長
- 次第
 1. 開会
 2. 会長及び副会長の選任
 3. 議題
 - (1)公立保育等再編方針の進捗状況について
 - (2)こども計画について
 4. 閉会

■議題

(1) 公立保育等再編方針の進捗状況について

事務局より説明 【資料1-1】【資料1-2】

〔会長〕ただ今説明がありました公立保育等再編方針の進捗状況について、ご質問などありましたらお願いします。

〔委員〕：大津幼稚園民営化について、まどか会、保護者会、大津町の3者による協議が丁寧に行われているのはいいことだと思います。給食等について保護者の方が心配されていたかと思うが、解消されたのでしょうか。

〔事務局〕：保護者からご意見があった点については、3者で協議し、必要に応じて子育て支援課から関係部署と課題解決に向け協議しており、今のところスムーズに委譲に向けて進んでいます。

〔委員〕：こども園の整備について、子ども子育て会議とは別の会議の意見だったかと思いますが、昭和園に建てること自体がダメという訳ではないが、心配なところがあると話が出ていたと思います。現時点では、あまり昭和園が利用されていない事やアクセスの問題等心配されている方もいたかと思いますが、今後、基本構想などでどのように取り組んでいくのでしょうか。

〔事務局〕：公立保育等再編方針の会議でも昭和園に整備することでの課題点についてご意見をいただきました。昭和園の良さを生かしながら、アクセス面の課題にどう対応していくのか、また、安全性をどのように確保するか等、専門家や保育士にも入っていただきながら話を進めていく予定です。誰もが憩える場所を目指して、今回の基本構想の中で詰めていきたいと考えています。

〔委員〕：小6の子どもが陣内幼稚園を卒園し、大津幼稚園とも関わりがあり情報交換をしたり話を聞いたりしていたが、田植えなど地域交流が盛んな幼稚園だった印象があります。今回の民営化にあたって、保護者OBとして参加させていただきましたが、個人的には昭和園が候補地に上がったことに驚きました。陣内幼稚園は地域との結びつきの強さが魅力的な園でした。昭和園に移転し公立の認定こども園になるのであれば、これまでの幼稚園と大幅に変わってしまうと思います。大津幼稚園も民営化しますし、これまでの大津幼稚園の良さがどこまで引き継がれるのかが気になります。考えがあれば伺いたいです。

〔事務局〕：委譲先法人のまどか会についても、今までの歴史や園の方針等を踏まえたうえで、前園長・職員等との対話のもと、引継ぎを進めていただいています。まどか会からも、ご指摘いただいた部分を一番に考え、引継ぎを行うと言っています。大きく変わることなく行事等を進めていけるよう、前園長・職員等と話す機会を設けられればと考えています。

〔事務局〕：陣内幼稚園と地域との関わりがどのような点について、新たな園になっても地域交流は非常に大事だと思いますし、良い所を引き継ぎながら、昭和園だからこそ出来る交流の仕方も、協議をしながら築いていきたいと考えています。

〔委員〕：地域密着も大事だが、大津幼稚園だから、陣内幼稚園だからという理由で、他の幼稚園を選ばれなかった保護者もいるかと思います。家庭の状況やこどもの発達状況など。その辺の受け皿をきちんと確保いただきたいと思います。

〔事務局〕：地域の多様なこどもの受け皿として、作り上げていきたいと思っています。

（２）こども計画の策定について

事務局より説明 【資料２】

〔会長〕：何か意見や質問があればお願いします。

〔委員〕：今までの会議より、内容の範疇が広がっていると思います。この会議は大津町子ども子育て会議条例に則る会議だったと思いますが、この会議内でこども計画の検討も行うのでしょうか。

〔事務局〕：３月議会で条例の改正を行い、子ども子育て支援事業計画を策定する会議から、今後はこども計画の一体的策定に向けた検討機関といたします。

〔委員〕：会議の名称はそのままになりますか。

〔事務局〕：そのままの予定です。

〔委員〕：今までより範疇が広がるので、委員について、もっと多様な分野から広く参加いただく方が良いと思います。

〔委員〕様々な方法で意見を聞くのはいいことだと思います。ただアンケートなどで聞き取

れない意見について、支援者の方へも聞き取るということで、それは良いと思いますが、本当に困っている家庭や、普段から支援している方の話を丁寧に聴き取りしてもらえればと思います。本当に支援が必要な方の中には困り事を言語化できない、伝えられない方もいるので、関係者や支援者等を含めてヒアリングしていただければと思います。

〔事務局〕：支援が必要な家庭や支援者等にもしっかり意見を聞けるよう、課題が複雑化複合化している世帯からも意見を聴取できるよう努めたいと思います。

〔委員〕：支援者は既存の制度や仕組みを基に支援を行っているので、制度の範疇で無いので対応できない、というケースも多いかと思います。そのような従来の支援の範疇になかった部分の支援を検討していく内容にしていいただければと思います。

〔委員〕：アンケートに関して、小学5年生には難しかったかと思います。問題数も多く、回答の途中保存もできなかったのも。小学5年生であっても、個人の発達や理解度に差があるので、答えやすい問題設定に今後は努めていただきたいです。また、自由記述欄があるが、こどもが調査の回答に40分近くかかることもありました。設問設計や対象年齢の設定について、発達段階に応じた専門的な知見のもと対応いただきたいと感じました。

〔事務局〕：確かに今回の調査は、設問数が多くなり、難しかったと思います。頂いたご意見は今後の調査設計の参考にさせていただきます。

〔委員長〕：本当に困っている方から意見をいただけるように、ヒアリング対象者については、事務局で協議していただきたいです。

〔委員〕：調査する側のマンパワーは限られると思います。アンケートに答えられる方はアンケートにて回答いただいていると思いますので、アンケートに答えることが難しい方を優先的に、ヒアリング調査に取り組んでいただきたいと思います。

〔事務局〕：検討して意見を聞けるようにしたいと思います。

3 閉会